

気候変動による降雨量の増加

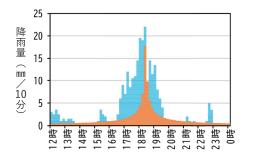
河川整備と大雨の比較

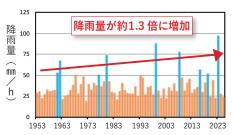
本市では、一般的な基準である 1 時間あたり 50 ミリメートルの降雨を 円滑に流すことを目標にして、河川整備を進めています。

右図は、10分毎の降雨量を表したグラフです。オレンジ色の棒グラフは、河川整備を行う際の計画規模降雨(1時間あたり50ミリメートル)です。青色の棒グラフは、台風第13号の降雨量を表しています。台風第13号の降雨は、河川整備の計画規模を大きく超えた雨量であったことがわかります。

降雨量の推移

右図は、日立市天気相談所が開設された 1953 年以降の 1 時間最大降雨量の推移を表したグラフです。オレンジ色の棒グラフは、1 時間あたり 50 ミリメートル未満の降雨を表しています。青色の棒グラフは、1 時間あたり 50 ミリメートル以上の降雨を表しており、72 年間で 10 回発生し、その降雨量は約 1.3 倍に増加しています。





「流域治水」とは

今後も気候変動の影響により河川整備の計画規模を超える大雨が頻発し、水害の激甚化が予想されています。 このため、これまで行ってきた行政主体の対策に加え、流域のあらゆる関係者が協働し、さまざまな治水対策に 取り組む「**流域治水**」への転換が必要となっています。

これまでの治水

行政(河川管理者)を中心とした河川整備



流域治水

行政、企業、住民など、流域内のあらゆる 関係者が協働してハード、ソフト両面から 対策に取り組む

「流域治水」の3つの対策

流域治水では、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策(雨水を一時的に貯める取組など)、②被害対象を減少さ せるための対策(浸水しやすい場所からの移転を誘導するなど)、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策(避 **難体制を強化するなど**)の3つの対策を柱としています。

対策の範囲は、河川区域や氾濫域のみではなく、集水域(*)を含めた流域全体で対策を実施します。

*降った雨が川に流れ込む範囲

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策

■ 遊水地・調節池の整備







■ 河道内土砂の浚渫

【実施前】



■公共施設への雨水貯留浸透施設設置 など

流域治水対策の例 田んぼが もともと持って いる水を貯める 機能をいかす



【流域治水対策イメージ】

管理・国土保全局「流域治水」の基本的な考え方より 栃木県県土整備部河川課 提供

②被害対象を減少させるための対策

- 立地適正化計画に基づく水害リスクの低いエリア への居住誘導
- 住居の個別移転助成
- 住居の防災改修 など



【住居の防災改修(かさ上げ)のイメージ図】

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

■ ハザードマップの見直し

氾濫域

- 河川監視カメラの整備
- 住居の浸水対策への支援
- 市公式 LINE による各種 災害情報の配信 など



【ハザードマップ】

みなさんにできる流域治水

■雨水貯留槽を設置する

住宅に雨水貯留槽を設置することで、降った雨水が 一気に川に流れこむことを防ぐこと

ができます。

市では、設置工事費用の一部を 助成しています。

■ 防水板や浸水防止塀などを設置する _{【設置イメージ図】}

住宅に防水板や浸水防止塀を 設置することで、浸水被害を軽 減することができます。

市では、設置工事費用の一部を 助成しています。



■ マイ・タイムラインを作成する

災害から身を守るためには適切に避難することが重 要です。事前にマイ・タイムライン(風水害時の個人 の避難行動計画)を作成し、災害時に「いつ」「誰が」 「何をするのか」を決めておくことで、落ち着いて避難 行動をとることができます。

■ 水害に備え、土のうを活用する

水害時の備えとして、必要に応じていつでも土の うを持ち出せる土のうステーション を整備しています。自宅の浸水対策 のために活用してください。



日立市 都市建設部 都市整備課

☎0294(22)3111 (代表) E-mail toshiseibi@city.hitachi.lg.jp







日立市HP